



—解脱会太陽精神碑—

かけはし

～コロナ禍の中今できる事を大切に～

11月に入り朝夕の寒さが身に染みる季節となりました。本来であれば今月は、解脱選抜剣道大会が開催される時期ではありますが残念ながら中止となりました。日常生活に於いても、まだまだ制限が掛かる日々が続きますが、門下生はひた向きに一生懸命、今できる事を大切に稽古に励んでいます。

少年部は来年1月に開催される全国大会、一般部は高段位審査会に向けて率先して稽古に励み各学年、各世代でしっかりと目標を持ち修錬を重ねています。

今年も残すところ後2ヶ月、まだまだ予断を許せぬ毎日ではありますが錬心館創立50周年を迎え、全門下生で気持ちを一つにして一步ずつ着実に新たな歴史を作り上げて行きましょう。



第69回全日本剣道選手権大会 泉英太出場 (順天堂大学4年・OB)

11月3日(水・祝)第69回全日本剣道選手権大会が日本武道会に於いて開催されました。厳しい埼玉県予選を勝ち抜いた、泉英太さん(順天堂大学4年・OB)は埼玉県では初となる大学生での出場という快挙を成し遂げました。このことは錬心館少年門下生にとって、大きな夢を与えてくれることとなりました。

今回の素晴らしい経験を今後を活かし、更なるご活躍を祈念致します。

泉英太さんは大学卒業後、来年4月から解脱錬心館の専従指導者となります。



行事予定

《11月》※11月15日以降の予定

○ 館の行事

※稽古休み 23日(火・祝) 祝日の為
27日(土) 解脱会行事の為



○ 大会・審査会

20日(土) 六段審査会(東京)

21日(日) 剣道体験教室(14時~14時30分)

23日(火・祝) 埼玉県剣道大会(一般・上尾)

23日(火・祝)・24日(水) 七段審査会(東京)

25日(木)・26日(金) 八段審査会(東京)

○ 受入行事

28日(日) 第141回解脱金剛御生誕祭(解脱会)

《12月》

○ 館の行事

4日(土) 道場大掃除(9時30分~11時30分)

※今回の大掃除は一般部・少年部保護者のみ参加とし
各ご家庭で判断し参加は任意と致します。

※稽古休み 4日(土) 大掃除の為



◎今年の稽古納めは各クラスの最終日を稽古納めと致します。

初心者・少年部合同 12月24日(金) 17時~18時

木刀教室 12月23日(木) 通常の稽古時間(10時~)

一般部(午前) 12月24日(金) 通常の稽古時間(10時半~)

一般部(午後) 12月25日(土) 通常の稽古時間(16時~)

※強化選手の稽古納めは、強化予定表を確認して下さい

○ 大会・審査会

2日(木) 埼剣連月例稽古会(県立武道館)

12日(日) 毎日レディース剣道大会(小中女子代表・東京)



◎中学3年生の剣道体験実践作文を紹介します！

感謝の先に見えるもの 中学3年 田中 隆斗

「感謝を忘れてはいけない」

今なお猛威を振っている新型コロナウイルス。昨年は、多くの大会が中止となり悔しい気持ちでいっぱいでした。今まで、当たり前のように過ごしてきた日々が一転。稽古が出来ず、先生方、仲間に会えず多くの事が制限されました。この時、今まで当たり前だと思っていた日常は決して当たり前なものではなかったと気づき、その当たり前の日々への感謝が足りていなかったのだと実感しました。

今年に入ってからは、少しずつ大会などが行えるようになり、昨年出来なかった分まで一回いっかひの錬成会、大会への心持ちを上げて臨むようにしています。そして、来年一月に大阪で開催される全日本剣道道場連盟の全国大会の予選、県大会が感染対策を徹底したうえで開催されることが先生から伝えられました。その時、試合が行えることに喜びを感じ、今まで以上に気持ちが高まっていました。それと同時に、頭に浮かんだのは昨年の先輩方の姿です。昨年、この大会が中止となった時悔し涙を流していた先輩方の姿が不意に浮かんできました。その先輩方の思いを背負って戦わなくてはならないと強く心に決めました。先生は

「今回、大会が開催できるのは多くの人がみんなのために試合が行えるよう動いてくれているからです。これは、決して当たり前ではない。だからこそ、感謝の気持ちを忘れてはいけない。」

とおっしゃいました。私は「感謝」という言葉を聴き、はっとしました。自粛期間に感じていた感謝の気持ちが稽古できていたり、学校に行けていたり日が経つにつれ薄れていたのです。そこで、気持ちを改め「感謝」をキーワードに日々の生活を送るようになりました。

試合前日の稽古でも「試合ができることは決して当たり前ではない。いろんな人が支えてくれているから行えるということを忘れてはいけない。明日は、感謝の気持ちで戦いなさい。」

先生はそうおっしゃいました。そして、試合当日は、昨年の先輩方の思いも背負い、大会ができる事への感謝を忘れず臨みました。結果は、全国大会出場は決まったものの優勝は叶わず力を出し切れないうまく終わってしまいました。「悔しい・・・悔しい。」ただそれだけが頭に浮かびまだまだ準備不足だったことを実感しました。しかし、まだチャンスはある。一月の全国大会までに自分の足りないものを補い、改善し万全の状態に臨むため。今できることを着実にこなしていき一日の成果は小さくてもそれを積み上げて大きくしていくことを心に決めて日々修練しています。

これから先、まだ何が起きるかわかりません。今、少しずつ感染者が減ってきていますが次またいつ増えるかわかりません。もしかしたらということも起きてしまうかもしれません。だからこそ、感謝を忘れずに日々過ごしていかなければいけません。普段の日常に感謝することは簡単なことではありません。ただ過ごしているだけでは、何の変わりもない日常が過ぎていくだけです。その中で、当たり前のことにも感謝する。私は、そうすることでコロナ禍前よりも精神的に成長することができました。これから先、どんな事があっても感謝することを忘れず自分の一つの軸にして日々過ごしていきたいと思えます。

続けたことで気づいたこと 中学3年 大西 真尋

小六の冬、道場の先生に「中学でも頑張れ」と声をかけられた時、無意識に出た言葉は、「辞めるつもりです。」でした。

私は、大好きな四つ上の兄にあこがれて、幼稚園の年長から剣道を始めました。兄のように、と始めた剣道でしたが、見るのとやるのは大違いで、道着は着るのが難しく動きにくいし、竹刀は重くてうまく振れません。最初は泣いてばかりでした。それでも兄や両親のはげましや先生方の指導のおかげで半年もすると稽古が楽しくなり頑張れるようになりました。そして小二の時、兄と同じ強化クラスにあがることができました。兄に一步近づいたと、とてもうれしかったことを今でも覚えています。ですが、クラスがあがってからの稽古は、回数も増え内容もより濃いものへと変化していきました。その稽古にも慣れて後輩が増えてきた頃、大会等の試合に出していただける機会が増えてきました。初めは無我夢中で、ただ試合に出られるのがうれしかったのですが、だんだん怖くなっていきました。私は体が小さくあまり俊敏ではないので、先に攻めることが苦手で、無理に先に出るとすぐに打たれてしまいました。自分より大きい相手との対戦では引き分けるのが精一杯で、勝ちきることができない日々だんだん苦しさを感じるようになってきました。日本一を目標にしたチームで引き分けばかりの自分、いつもの仲間の言葉や視線も下向きな自分には、辛いものになっていきました。それでも「兄のように」と必死に自分と戦いました。しかし小六の冬のできごとです、先生に中学生になったら剣道を辞めると言うてしまったのです。「なぜ？どうして？」先生や両親の問いかけに「試合が怖い、剣道が怖い。」と泣きながら答えることしかできませんでした。気持ちが折れてしまっていたのです。その後何回も先生と話し合いましたが、気持ちが変わることはありませんでした。そんな私に母は「後ろ向きのまま辞めてしまっているの？もう一度じっくり考えてみたら？」と言い、先生達もいったんゆっくり悩む時間を与えてくれました。「兄のように」と頑張ってきた剣道、仲間と泣いて笑って頑張ってきた剣道、まだ怖いけど本当に辞めてしまっても良いのだろうか。なかなか答えが出ないまま三月を迎え、道場で「卒業を祝う会」が開かれました。卒業生は前に出てあいさつをし、先生から門出の言葉をいただきます。その時先生は私に「君には応援をしてくれる人がたくさんいる。一人じゃない。」と言って下さいました。見わたすとたくさんの門下生、OB、先生方が私を見ています。「みんな私を応援してくれている。」と強く感じ、悩んでいた心がすーっと晴れていきました。「剣道を続けよう、仲間ともう少し頑張ってみよう。」自然に気持ちが前向きになり、涙がこみあげてきました。

それからは仲間と共に、先生の指導のもと前へ前へと進んできました。コロナ禍による大会中止、練習休止等、辛い日々には涙したり、再び練習や大会ができることに感謝したり、剣道を辞めていたら得ることができなかった色々な経験をすることができました。もう私は下を向いてはいません。支えてくださった方々への感謝を忘れずに、色々な人を支えられる人間になれるよう日々精進していきます。今、私は剣道を続けて良かった、心からそう思います。

挑 戦 中 学 3 年 樋 口 佳 史

「今年こそは、中学生最後のチャンス」と自分の心の中で決めていた。しかし、昨年から新型コロナウイルスが流行し、今ではまん延防止等重点措置や五度目の緊急事態宣言が発令されました。このような状況の中で、今何を最優先すべきだろうか。僕自身、大好きな剣道が出来、練習試合や大会へ行けるということはとても幸せということ、あたり前の日常生活が送れることがどれだけ大切なことか、改めて実感しました。

新型コロナウイルスが流行する前は、道場へ通い稽古をし、練習試合や大会が不自由なく行われていました。ところが令和二年に新型コロナウイルスが世界中に流行しはじめ、学校が休校となり、道場も休館となっていました。休校期間中は、外に出たくても出られない、稽古をやりたいくても出来ない、仲間に会いたくても会えないという、とても苦しくて不安な生活を過ごしていました。

短い時間での稽古が再開した日「ようやく仲間たちと稽古が出来る」と思っていた矢先、つぎつぎと大会や練習試合が中止になりました。全国大会までも…心がとても暗く、沈んだような気持ちになりました。この先何が残っているのだろうか。今年も昨年と同じなのか、このまま終わってしまうのかと心のどこかで叫びたくなりました。そんな時、先生方の言葉や、仲間たちの励ましのおかげで、自身も、このままではいけない「剣道をもっとがんばろう」と強い気持ちを持つことが出来ました。今までの生活の日々がどんなに幸せだったか。一日一日の大切さを僕は肌で感じました。少しずつ道場で練習できるようになり、不安な気持ちも少しずつ落ち着いてきました。今、くじけてはいけない、あきらめてはいけない、前を向いて今出来ることを全力でがんばろうと思いました。今は、学校もいつも通りに行けること、道場で稽古ができること、普段の生活が送れるということがどれほどありがたく、快適だったのかを学ぶ日々でした。そして、コロナ禍だからこそ気付けなかったこと、目標や夢を持つことがどんなに素晴らしいことかを考えることが出来ました。

まだまだコロナウイルスの終息には程遠いですが、今回の経験や思いを忘れず、今できることを自分から考え、行動すること、先生方の懸命な剣道の教えを忘れず、最後のチャンスを新たなチャンスに切り替えて、今度は僕自身が恩返し出来る様に、何事にも全力で剣道と向き合っていきたいと思います。

最後に、剣道は礼に終わります。僕の剣道人生はまだまだ続きます。今は次の道をしっかりと決断し、新たな場所で様々な問題や壁にぶつかる日があっても、いままでの経験を活かしていき全身で受け止め、強い心で乗り越えていきたいです。いつも感謝の心を忘れず、この先も剣道への目標を高く持ち続けていきたいです。

☆稽古スナップ

(写っていない門下生ごめんね！)



～ お 知 ら せ ～

◎第19回埼玉県剣道大会(上尾)



小学5年の部(個人戦)

優 勝 大野 勝輝

準優勝 野澤 遼樹

◎第70回関東学生剣道優勝大会(神奈川)

男子団体 第3位 (全国大会出場)
立教大学 鈴木 悠誠(大学3年)

☆昇段おめでとございます-----

四段 古田卓也(一般) 長島俊介(OB)

鈴木悠誠(OB) 新井雄大(OB)

若松将輝(OB) 小嶋紅音(OB)

三段 大熊日向(OB)

二段 田中隆斗・樋口佳史・大西真尋(中3)

初段 古田聖央(中2)

令和3年10月・11月取得

- 編 集 後 記 -

今年の主催大会も残念ながら中止となりましたが、最近では感染者も減少傾向であり少しずつではありますが落ち着いた生活が過ごせる毎日となりつつあります。今年も後2ヶ月となりました、気を抜かずに感染防止を徹底して頑張ってください！ (Y)